

又、「頭破れて七分に作る事、阿梨樹の枝の如くならん」。又云、「亦現世に於て其の福報を得ん」等。又云、「若し復、是の經典を受持せん者を見て其の過惡を出さん。若しは実にもあれ、若しは不実にもあれ、此の人は現世に白癩の病を得ん」等云云。答云、汝が疑大に吉。ついでに不審を晴。不軽品云、「悪口罵詈」等。又云、「或は杖木・瓦石を以て之を打擲す」等云云。涅槃經云、「若しは殺、若しは害」等云云。法華經云、「而も此の經は如来の現在すら猶お怨嫉多し」等云云。仏は小指を提婆にやぶられ、九横の大難に値給。此は法華經の行者にあらずや。不軽菩薩一乘の行者といわれまじきか。目連は竹杖に殺る、法華經記勃の後なり。付法藏の第十四提婆菩薩・第二十五の師子尊者二人は人に殺ぬ。此等は法華經の行者にはあらざるか。竺道生は蘇山に流ぬ。法道は火印を面にやいて江南にうつさる。北野天神・白居易、此等は法華經の行者ならざるか。

事の心を案ずるに、前生に法華經誹謗の罪なきもの、今生に法華經を行ず。これを世間の失によせ、或は罪なきをあたすれば、忽に現罰あるか。修羅が帝釈をいる、金翅鳥の阿耨池に入等、必返り一時に損ずるがごとし。天台云、「今我疾苦は皆過去に由る、今生の修福は報、将来に在り」等云云。心地觀經云、「過去の因を知らんと欲せば、其の現在の果を見よ。未來の果を知らんと欲せば、其の現在の因を見よ」等云云。不軽品云、「其罪畢已」等云云。不軽菩薩は過去に法華經を謗給ふ罪、身に有ゆへに、瓦石をかほるとみへたり。又順次生に必地獄に墮べき者は、重罪を造とも現罰なし。一闍提これなり。涅槃經云、「迦葉菩薩、仏に白して云さく、世尊、仏の所説の如く大涅槃の光、一切衆生の毛孔に入る」